

令和5年度 相生中学校 学校評価の考察

2024/2/13

ベスト3（生徒・保護者：「1」・「2」を選んだ割合、教職員：「1」を選んだ割合） ↑:前進 ↓:後退

	生徒	保護者	教職員
①	9 先生は、あいさつをふくめ生活全般にわたって熱心に指導している。(97%) ↑4	9 授業参観等の回数は適切である。(100%) ↑2	8 学校は、必要な情報を家庭に発信している。(92%) ↑23
②	3 体育祭や学習発表会など、各種の行事が楽しい。(95%) ↑6	12 学校は、お子さんへの、あいさつを始めとした生徒指導は適切である。(97%) ↑9	15 学校は、健康管理に気を配っている。(85%) ↓2
③	7 先生は、気持ちや思いをよく受けとめ、接してくれている。(95%) ↓1 8 先生は、学級や学校のお知らせをていねいに説明している。(95%) ↓3 11 先生は、生徒の健康管理に気を配っている。(95%) ↑4	14 お子さんの学習成績は、適切に評価されている。(97%) ↓1	3 学校は、生徒や保護者の気持ちや思いをよく受けとめ、対応している。(77%) ↑2

ワースト3（生徒・保護者・教職員：「3」・「4」を選んだ割合） ↑:前進 ↓:後退

	生徒	保護者	教職員
①	5 授業でわからないことについて、先生に質問しやすい。(33%) ↓6	5 お子さんは、授業でわからないことについて、先生に質問しやすいと言っている。(30%) ↑7	17 学校は、業務改善や働き方改革に取り組んでいる。(15%) ↓15
②	12 部活動の活動時間はちょうどよい。(25%) ↓7	4 お子さんは、授業はわかりやすいと言っている。(24%) ↑8	11 学校は、PTA組織とうまく連携し、有効な活動を実施している。(8%) ↓8 12 学校は、あいさつを含め生活全般にわたる生徒指導は行き届いている。(8%) ↓8
③	2 積極的に部活動に参加し、楽しい(楽しかった)。(24%) ↓2	16 部活動の活動時間はちょうどよい。(23%) ↓16	16 学校は、部活動適正化に取り組んでいる。(8%) ↓8

- 【成果】
- 生徒の「先生は、気持ちや思いをよく受けとめ、接してくれている」、「先生は、生徒の健康管理に気を配っている」の項目に関して、日ごろの教職員の生徒理解への取組の成果が現れている。このことが、保護者の「生徒指導は適切である」、「適切な評価ができています」項目へとつながっていると考えられる。

- 【課題】
- 生徒の「授業でわからないことについて、先生に質問しやすい。」に関して、教職員の授業中や学級において質問しやすい雰囲気をつくる工夫やゆとりある教育課程、日課が必要と考えられる。
  - 「部活動」に関して、保護者の記述アンケートに「大会に向け定期考査前でも活動時間の確保をしてほしい」という要望があった。このことから柔軟な部活動休止期間の運用が必要と考えられるが、そのためには学習面や生徒の精神的・肉体的側面を配慮し、日ごろから学習を計画的に行う指導を行い、試験前の詰め込み学習による負担を軽減するなどの工夫が必要と考えられる。
  - 「生徒指導」に関して、生徒・保護者と教職員との間で認識の差がある。そのため、教職員の生徒指導に関する共通理解が必要と考えられる。